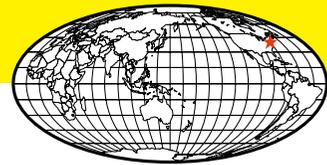


桜の名所、タイダルベイスン。奥はワシントン記念塔



海外

稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

会長メッセージ

「集り散じて、人は変れど」と聞くたびに、つい「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮ぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」(『方丈記』)を口ずさんでしまいます。人は人に出会い、そして別れていく運命にあります。卒業して半世紀、日本ではもちろん、かつて住んでいたニューヨーク、クアラルンプール、そして現在住んでいるワシントン首都圏で数多くの校友と出会い、母校の話に花を咲かせ、いつの日かの再会を約して別れるということを繰り返してきました。

津軽海峡を渡るのが夢だった北海道の田舎生

まれが、日本全国から集まる秀才、凡才、異才に驚き、自分の器の小ささ、貧相な発想力に愕然としたことを今でも鮮明に覚えています。高田牧舎では名物カレーに舌鼓を打ち、金城庵でそばを食べた後はそのまま授業をさぼり、授業料値上げ反対デモでスクラムを組み、多くの友に出会いました。

さらには各国で早稲田に留学した外国人にも出会い、早稲田を語りました。各々が各々の道に進み、己の人生を歩んでいる。まさに、「ゆく河の流れは絶えずして、〜かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」です。

今村勝征(1968年法学)

会員からのメッセージ

わせられるという罰ゲームがあるのですが、2017年は春に続いて秋の大会でも三田会諸君に『紺碧の空』を歌ってもらうことができました！

望ノ脇 伸(1984年政経)

アメリカの首都ワシントンと聞くと、世界の政治や経済の中心であり、お堅い街という印象を抱く人も多いでしょう。私もそうでしたが、来てみて分かったのは、日本と同様に、いやそれ以上にコネ社会だということです。会いたい人に面会を申し込む際にも紹介の有無によって対応が違い、レセプションやパーティーで知り合いからさりげなく紹介してもらい、仕事とは無関係なおしゃべりをするだけで思った以上にフランクな関係を築けることもあります。

そんなとき、さまざまな業界で活躍し、幅広いネットワークを持つ早稲田の先輩方にお世話になることが多くあります。ワシントンということもあり、東大卒の偉い方々もたくさんいるのですが、ビールやワインのグラスを傾けながら、となると、早稲田の先輩の方が断然頼りになると感じるのは私だけではないでしょう。高田馬場で培った人間力は、どこへ行っても役に立つのです。

小川 聡(1994年社会学)

ワシントン首都圏稲門会について

ワシントン首都圏稲門会は、ワシントンD.C.および隣接するバージニア州、メリーランド州在住の校友で構成されています。1988年に設立され、現在の会員数は約100人。会員は、メーカー、金融、商社、シンクタンク、マスメディアなど日系企業駐在員のほか、世界銀行など国際金融機関職員も在籍するなど、政治や国際金融の中心である当地ならではの構成となっています。

有識者を招いた研修会、バーベキュー会などの食事会や新年会、伝統の早慶ゴルフコンペな

ど積極的にイベントを開催し、これらを通じて業界をまたいで交流を図っています。普段は政治やビジネスの最前線で活躍する会員たちも、一度集えば同窓生として、和気あいあいとした雰囲気の中で会話に花を咲かせる、そのような稲門会です。

また、当地はジョージタウン大学やジョージワシントン大学などがある学生街でもあり、留学中の現役生とも交流を図り、良き相談役にもなっています。

深森健志郎(2011年基幹、13年基幹研修)



稲門会バーベキュー懇親会



早慶ゴルフコンペ(2017年秋、早大優勝)

ワシントンの魅力

ワシントンはあらゆる利害が対立する場所です。国益、ビジネス、環境、あらゆる分野の「専門家」が、さまざまな形で情報を発信するので、好奇心旺盛な人には刺激的な所です。例えば、「下院議員との朝食会で税制改革の展望を伺い、その後シンクタンクのセミナーで北朝鮮問題について専門家の分析を聞き、続いて業界団体で北米自由貿易協定(NAFTA)再交渉に関する情報を収集、最後に某国大使公邸のレセプションでワインを飲みながら通商問題について話す」なんていう一日もあり得ます。

また、文化イベントもたくさんあります。ワシントン首都圏には美術館、博物館が200近くあり、常設展のほか、特別展やレクチャーなどが催されます。例えば先日イベントを検索したところ、ナショナルジオグラフィックの「Atlas of

Beer」というイベントが真っ先に目に留まりました。ビールの歴史とトレンド、なるほど面白そう！ですが、参加費が100USドルなので諦めました。無料イベントだけで十分楽しめます。

文室慈子(1990年文学)



ワシントン記念塔からホワイトハウスを望む